



社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2018年2月1日発行

第64号



発行 社会医療法人同仁会 同仁会報編集委員会 〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
TEL 072(244)7260 FAX 072(247)0165 URL http://www.mimihara.or.jp (同仁会HP)



16歳で被爆。あの時カーテンを閉めていなかったら死んでいた...

体験を語るのは今
福米志津さん(89歳)

「被爆体験聞き取りの会」を開催

「鳳クリニックと老健みみはら核兵器廃絶キャンペーン(OCAN)」主催



2017年11月30日

福米志津さんは16歳の時に、広島市の爆心地から約1・8km²に離れた寮で被爆。
当時、広島赤十字病院看護婦養成所の女学生でした。
赤痢患者が続出し、宿舎も病室となり近くの寮に移動してしました。
1945年8月6日、午前8時15分原爆投下。窓からの太陽の光が眩しくカーテンを閉め机の所にもどった時、轟音とともに白い閃光、写真のフラッシュの1000倍もの強烈な光がカーテンの隙間から差し込み、眼の前が真っ暗になりました。どのくらいの時間が経過したか、意識が戻ったときには、倒壊した建物の下敷きになり身動きがとれなくなっていました。
瓦礫から脱出しましたが、辺りは埃と

煙でうす暗く、死体の焼ける臭い、電柱の炎、町は破壊されていました。
窓側だった右半身はやけどを負い、手の甲は皮膚がはがれ血が滲み、額からの出血でブラウスの胸元は赤く染まっていました。
髪は灰をかぶったように汚れ、櫛を入れると一かたまりの髪の毛が抜け落ちました。
病院で治療を受け、負傷者の看護にあたりました。
目と鼻と口だけ開けて、顔全体に包帯を巻かれた人が多数ホールに横たわり、あちこちから「痛い、助けて」とうめき声。負傷者の顔や体の火傷が化膿し、何匹ものウジ虫をとりました。
「あの時カーテンを閉めていなかったら死んでいた」と語ります。

福米志津さんより語られました。
参加された堺原爆被害者の会の中谷さんたちは、被爆者9人の証言を収録したDVD「かたりつぐヒロシマ・ナガサキ1945」を制作し、このDVDを、大いに活用してもらおうと呼びかけました。聞き取りの会の参加者へは、世界には1万5千発を超える核兵器が存在すること、平和の継承と核兵器廃絶への行動を呼びかけました。
「継承」とは被爆証言を単に伝えることではない。「核兵器をこの世からなくす。戦争しない」という課題を「自分にとってどういう意味があるのか」と考え、自分の願いにすること、被爆者は生き方を伝えたい。
被爆協 木戸事務局長 (民医連新聞より)

耳原鳳クリニック
MSW 戸田 輝子

こんにちは！ 同仁会グループ 事業所だより



みなさんの健康に役立つ「かかりつけ薬局」めざして
ヒマワリ薬局は、前身である南花田ひまわり薬局から2006年8月に現在の蔵前町に移転しました。
みみはらファミリークリニックだけでなく、近隣の病院、診療所や歯科の処方せんも受け付けています。
狭い待合室なので、窮屈に感じられるかもしれませんが、お薬ができるまで少しでも快適に待っていただけるよう、子ども向けの絵本や塗り絵、雑誌を置いたり、皆様の健康に少しでもお役にたてればと、病気の食事療法に関するパンフレットを取り揃えています。
また糖尿病の方でも使用できるジャムや砂糖不使用の甘味料、チョコレートも販売しています。
薬局の3階は「友の会ルーム」として、地域の方々も催しをしたり学習会を開いたりしています。
地域の方々に信頼され、何でも相談していただける「かかりつけ薬局」をめざし、スタッフ一同頑張っております。
何かご要望などありましたら、お気軽にスタッフまで声をかけてください。
今後ともどうぞよろしくお願致します。
(ヒマワリ薬局) 所長 坂田勝美

ヒマワリ薬局

〒591-8004
堺市北区蔵前町3丁5-46
TEL 072-240-5885